

100年に1度だから出来ること

現在、100年に1度の大不況と言われている。多くの県内企業や県民が厳しい経済環境にある中で、具体的経済効果を考えた時に公共事業の役割は極めて大きいと思われまます。

従って、新年度の予算編成に当たっては、通年の編成方針とは違った考え方で対応が求められると考えます。現在、県では第6次経済対策を策定し、様々な緊急経済対策を講じておりますが、新年度予算案の公共事業は対前年比90.7%で9.3%の減となっております。約100億円の大幅な減になります。

経済波及効果の観点から考えると、一般に投資額の1.6倍の波及効果があると

私の主張 2月定例会の 質疑から

言われているので、約100億円の減は約160億円もの経済波及効果が失われたことになる。これでは県が本当に危機感をもって経済対策に力を入れていくと評価することは難しいと思います。

計画通りの事業を実行するだけにとどまらず、こうした厳しい状況だからこそ事業計画を前倒しして予算化をすること必要と考えます。

昨年、座間市内の建設会社があいついで倒産しました。今年には更に厳しい状況になると言われています。こうした時だからこそ思い切った経済対策が必要ではないでしょうか？



【さがみ縦貫道路の近況】厚木ICから海老名北ICを望む



【湘南大橋工事進む！】平塚側より

今、なにを優先すべきか

県では行政改革の一環として職員数の削減を進めており、新年度は250人の削減が実施されトータルで1500人以上の削減が達成されるとの事でありまます。



県内一斉防犯パトロール

こうした目標達成のためには防犯および交通安全の分野で30人の減員が行なわれる一方で、受動喫煙防止条例に基づく取組みを推進するために30人や地球温暖化対策推進条例に関する取組みに5人が増員されることになっています。

私には、安全安心など県民生活に直結する分野よりも受動喫煙や地球温暖化条例の取組みの方が優先すべき行政課題であるとは思えません。とかく不況になると犯罪件数が増加する傾向がある事は、従来から知られているところであり、今後、犯罪の発生動向を注視すべき状況下で更なる治安対策の充実・強化が必要と考えますが、人員配置を含めた政策面

県のまちづくり事業

県内では、さがみ縦貫道や第二東名などの新しい道路の整備が進められていますが、これと平行して既存の道路補修・整備も行われています。

座間市内でも、交通安全対策の視点から車や人が安全・安心に通行出来る環境整備が進められています。昨年、小田急線相武台前駅付近の県道51号(町田厚木線)では、歩行者の安全確保を図る

ために、歩道の幅員を広げて通行しやすい空間の確保を行いました。また、平成21年では県道51号の座間1丁目バス停付近の交通安全対策と渋滞解消策として、歩道の拡幅とバスベ이의設置を予定しています。今後も安全安心のまちづくりを実現するために、狭い歩道の解消やバリアフリー対策の推進に努力いたします。



県道51号(町田厚木線)歩道・バスベイ整備工事

横横道路が全線開通!!

横濱横須賀道路の佐原インターから馬堀海岸インター間の43キロが3月20日開通し、横横道路の全線が開通しました。

私は県議会建設常任委員会の副委員長の肩書きで、開通式典の来賓として招待され、多くの同僚議員とともに出席して参りました。

東日本高速道路の横浜工事事務所によると、「約53分かかっていた神奈川県庁から観音崎までの移動時間が約8分短縮され、周辺道路や並行する国道16号の渋滞緩和や交通事故の減少が期待されています。」との説明がありました。



県担当部長と県議



小泉元総理

わかれた開通式典には、関係者約320名が出席し、来賓として松沢知事をはじめ小泉元総理らが祝辞を述べました。式典会場のテナト内で行われました。その後引き続き、関係者による走り初めが行われ、午後3時から一般車両の通行が開始されました。東京からのアクセス向上で、三浦半島を訪れる観光客の増加が見込まれており、今後の地域の活性化に期待がかけられています。

